

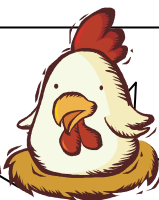
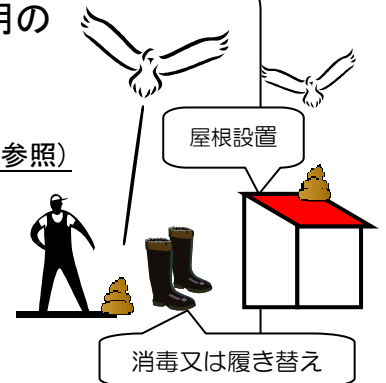
## 家畜衛生情報

### 高病原性鳥インフルエンザの侵入防止対策を徹底して実施しましょう！

熊本県では4月13日に発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫対応が取られており、長野県は、現在、本病の監視体制の強化につとめています。本病の発生を防ぐため、ウイルスを鶏舎に「入れない・持ち込まない」ための侵入防止対策を徹底してください。

#### 対策のポイント

- 鶏舎内出入口に踏み込み消毒槽を設置し、鶏舎毎に専用の作業着や長靴を使用するなど、ウイルスの侵入を防ぐ！  
また養鶏場内に入る車両や器具等の消毒を徹底！（2枚目参照）
  - 鶏舎内へ、部外者が立ち入ることを禁止する！
  - 野鳥と接触が考えられる川や湖等の水は、給与しない！
  - 渡り鳥の飛来地には近づかない！
  - 鶏舎の入り口や窓にネットなどを設置し、野鳥やネズミなどの野生動物の侵入を防ぐ！ また、堆肥舎等にも野鳥が入らないようにする！
  - ウイルスを媒介する可能性のあるハエ、ゴキブリ等の衛生害虫への対策を強化！
  - 高病原性鳥インフルエンザ発生国への旅行はしない！
- 飼養鶏に異常が発生したら、最寄りの家畜保健衛生所へ連絡を！！



異状の通報は  
すぐ家保へ

家畜保健衛生所	電話番号	家畜保健衛生所	電話番号
佐久	0267-62-4123	飯田	0265-53-0439
上田支所	0268-23-1630	松本	0263-47-3223
伊那	0265-72-2782	長野	026-226-0923
県庁園芸畜産課	026-235-7232		

## 鶏舎等の消毒方法

### 1 準備

- ① 鶏、給餌器、給水器等、動かせるものを移動する。
- ② ほこりがたたないように水などを散布し、糞やほこりを取り除く。

### 2 消毒液の調整方法

一般の薬局等で逆性石けん等を購入し、説明書に従い希釈する。

### 3 消毒薬の散布方法

#### ① 鶏舎等の消毒

じょうろや噴霧器（園芸用でも可）等で鶏舎の床や壁等に1m<sup>2</sup>あたり1リットル以上散布し、十分に乾燥させる。

特に、鶏舎の出入り口付近は重点的に！

#### ② 給餌器等の消毒

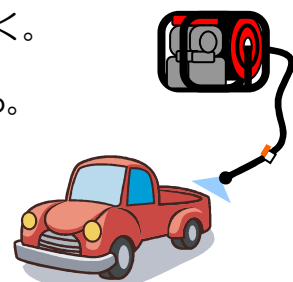
給餌器、給水器等は、十分に洗浄してから、調整した消毒液に10分ほど漬けるか、消毒薬を十分に散布し、乾燥させる。


#### ③ 鶏舎周囲の消毒

消石灰をそのまま使用する。

ホームセンター等で購入し、鶏舎周囲2～3mの範囲に、土の表面が白く覆われる程度（0.5～1.0kg/m<sup>2</sup>）を散布。

◎ 屋外運動場はしばらくの間使用しない。



 : 消毒範囲2～3m巾



## 鶏舎へ出入時に注意

鶏舎で作業をする場合、鶏舎内にウイルスを運び込まないために、専用の長靴や服、ビニール手袋（できれば使い捨て）を使用する。

また、鶏舎等の出入り口に踏み込み消毒槽を設置し、長靴を十分に消毒してから鶏舎に出入りする。

### 1 準備するもの

深さ15cm以上、一辺の長さが40cm以上のプラスチック製のバット（右図の様なもの）、消毒薬（調整は鶏舎消毒と同じ）、水

### 2 作製方法

バットの中に、調整した消毒剤を、長靴の甲の部分まで浸る位の量を入れる。

（バットの大きさによって量は異なる。）

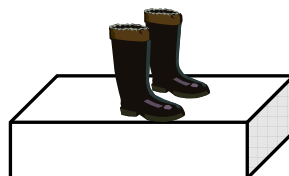
冬期に凍結する場合等は、消石灰を入れても可能。

### 3 使用方法

汚れを落とした長靴を、踏み込み消毒槽に20秒以上浸す。（消石灰の場合は、ブラシ等でくるぶし部分くらいまでまぶす。）

鶏舎の出入りの前後に必ず行う。

長時間使用すると消毒効果がなくなるため、1日に1回は、消毒薬を交換する。また、直射日光を避け、雨水が入らないところに設置する。



消毒薬を取り扱う場合は、ゴム手袋やマスク等の着用をおすすめします。

消毒薬の使用、保管については、特にお年寄りや子供が誤って飲まないよう、注意が必要です。

消毒についての情報が必要な場合は、最寄りの家畜保健衛生所へお問い合わせください。